

# 総合型選抜 2022 年度過去問題 救急救命学科

次の文（資料A・資料Bの新聞記事）を読んで、あとの問いに答えなさい。

資料A（「朝日新聞」2021年5月26日・朝刊）

政府は25日、新型コロナウイルスのワクチン接種を早めるための新しい対策を発表した。診療所への報酬は接種回数が多ければ月180万円以上も上乗せする大盤振る舞いとした。接種の担い手として救急救命士らを加える検討も始めるが、救急現場へのしわ寄せを懸念する声もある。

「少しでも接種スピードをあげるために全力を、ということ」「お金で解決できるものならどんどんやっていく」。首相官邸関係者が口をそろえる対策の柱は、診療所への報酬額の増額だ。

現在の接種1回あたり2070円（平日、日中の場合）か4200円（休日の場合）に加えて、(1)週100回以上の接種を7月末までに4週間以上行くと1回あたり2千円(2)週150回以上では同3千円(3)これに当てはまらない診療所や病院が1日50回以上接種すれば、1日10万円——をそれぞれ加算する。

厚生労働省によると、現状では、通常の診療を続ける診療所での平均的なワクチン接種回数は1日あたり十数回。(2)は土日に50回ずつ接種し、平日は通常診療をしながら1日10回程度の接種を実施した場合などが想定され、4週間で180万円が上乗せされる計算となる。

病院の場合は、通常は休診の日を接種にあてるなどの特別な態勢を取って1日50回以上の接種を週1回以上、7月末までに4週間以上続けられれば、医師1人1時間あたり7550円、看護師ら1人1時間あたり2760円が加算される。

ワクチンの「打ち手」も増やす考えだ。救急救命士と臨床検査技師を加える検討を始め、薬剤師は予診や接種後の経過観察などを担うとした。救急救命士は免許取得者数約6万4千人のうち、当初は救急現場にいない消防職員1万2千人を対象にする考え。だが、それでも管理職などとして救急現場に関与しているため、消防を所管する総務省関係者は「現場に影響は出る」と懸念する。その次は現場の救急救命士も「打ち手」にならないか議論する方向だが、厚労省幹部は「救急現場のことを考えると、どれだけ集められるか分からない」としている。（下司佳代子、田伏潤）

（出典：ワクチン接種加速へ対策次々 救命士を打ち手に検討／診療所への報酬上乗せ 朝日新聞  
2021年5月26日 承諾番号 jc-0002 朝日新聞社に無断で転載することを禁じる）

資料B（「読売新聞」2021年6月1日・東京朝刊）

新型コロナウイルスのワクチンについて、厚生労働省は、救急救命士と臨床検査技師による接種（注射）を認める方針を決めた。接種人材の確保を議論する同省の有識者検討会が31日に開かれ、了承された。同省は近く、救急救命士と臨床検査技師による接種を認める場合の条件などを各自治体に伝える。

現在、ワクチン接種は医師、看護師と、特例で認められた歯科医師が担っている。救急救命士（免許取得者約6万4000人）、臨床検査技師（同20万人）についても、自治体が医師や看護師を確保できない場合に、必要な研修を受けた上で、接種を受ける人の同意を得た場合に限って、特例で接種を認める。公共施設などでの集団接種会場での接種を想定している。

救急救命士は、命の危険がある人などに対して救急救命処置として薬剤を投与し、臨床検査技師も、血液検査のための採血を行っている。こうしたことから、同省は、両者にはワクチン注射に関する技術的基盤があると判断した。同省は今後、コロナワクチン接種で行われる筋肉注射についての研修内容や、接種を受ける人への同意の取り方について検討する。

このほか、有識者検討会では、接種会場で看護師が注射に専念できるよう、医師の問診のサポー

トや接種後の健康観察業務への協力を、薬剤師や診療放射線技師、臨床工学技士らに依頼することも了承された。

(出典:「ワクチン打ち手「救命士」「検査技師」容認 厚労省方針 集団接種会場など」読売新聞 2021年6月1日 東京朝刊)

**問1** 救急救命士による新型コロナウイルスのワクチン接種について、厚生労働省はどのような決定をし、これに対して、どのようなことが懸念されていますか。資料Aと資料Bの新聞記事から読み取れる内容を300字以内でまとめなさい(字数には句読点を含む)。

**問2** あなたは、救急救命士がワクチン接種をすることについてどのように考えますか。現状をふまえて、あなたの意見を500字以内で述べなさい(字数には句読点を含む)。